2013 年 8 月 8 日

《横浜市感染症臨時情報》風しん第 20 報

風しんの流行が継続しています。

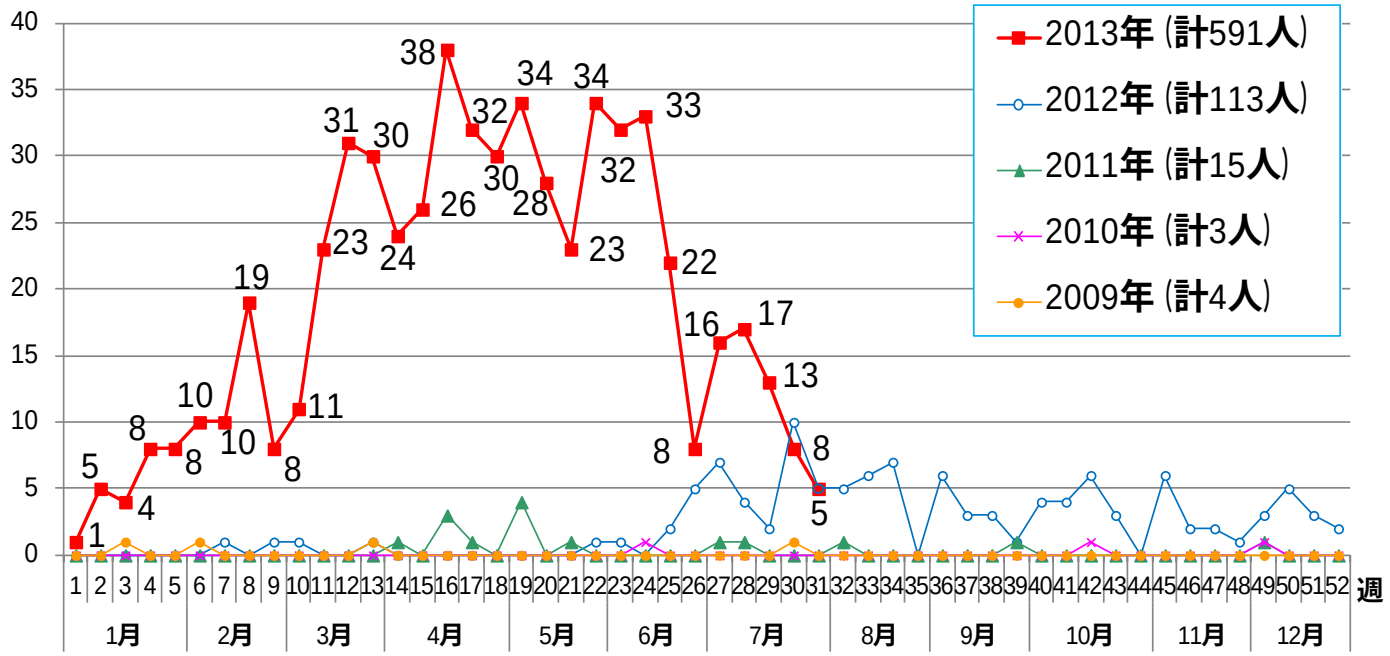
◇ 報告数は減少傾向ですが、依然として流行が継続しています。
◇ 全国では「先天性風しん症候群」の報告が続いています。
◇ 妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんに感染すると、赤ちゃんにも感染し、白内障、先天性心疾患、難聴などを主な症状とする「先天性風しん症候群」にかかってしまうことがあります。
◇ 「妊娠を予定・希望している女性」、「妊娠している女性の夫」を対象に予防接種の助成※を実施しています。

※ 横浜市の風しん予防接種助成の詳細（横浜市保健所：緊急風しん対策について）
http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html

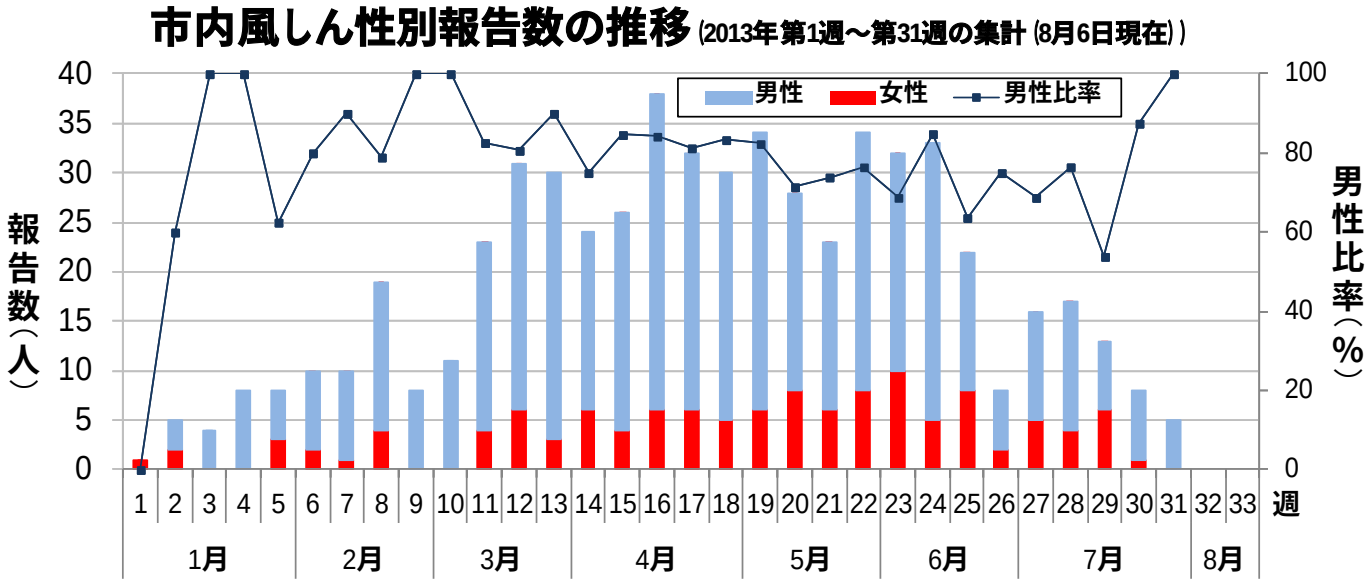
風しんの主な症状は、発熱とほぼ同時に出る発疹、耳の後部のリンパ節の腫れなどです。3日前後で解熱とともに発疹も消失します。気になる症状が現れたときには、必ず受診し、きちんと診断を受けましょう。

1 **市内流行状況**：今年の初めから第 31 週（7/29～8/4）までの患者報告数累計は 591 人です。第 26 週以降、週当たりの報告が 20 人を下回るようになりましたが、依然として毎週の報告が続いています。

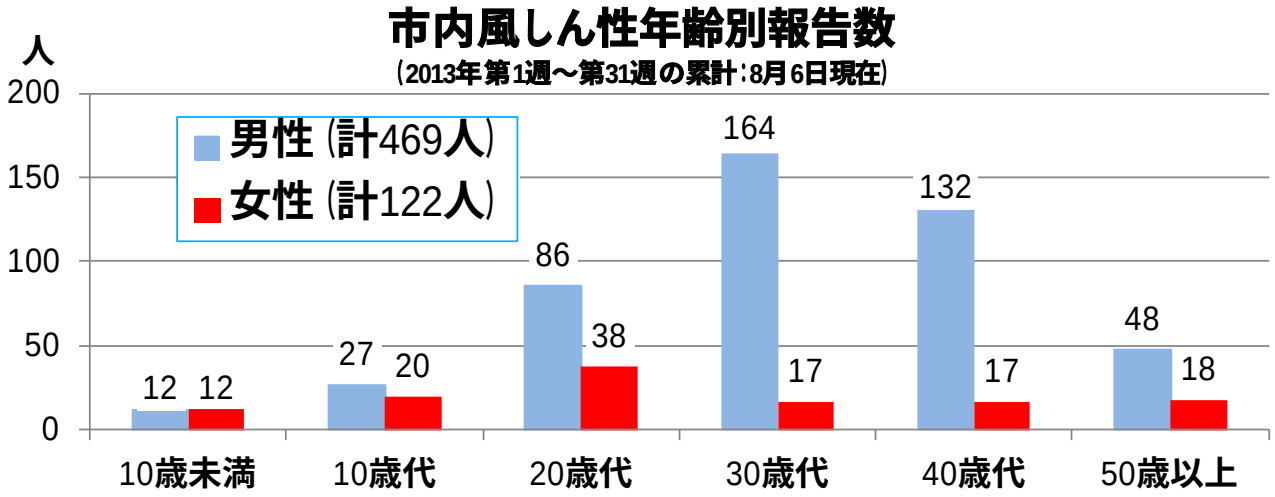
市内風しん報告数の推移（2013年第31週までの集計（8月6日現在））



2　**性別届出患者数と男性比率の推移**：男女共に患者数は減少傾向で、第 31 週は第 10 週（3/4～10）以来ひさびさに女性患者の報告がありませんでした。また男性比率は、ほとんどの週で 60%以上となっており、男性の報告が多くなっています。



3　**届出患者の性年齢別状況**：2013 年の患者数の累計では、男性が 79.4%（591 人のうち 469 人）で、そのうち 81.4%(男性 469 人のうち 382 人)が 20～40 歳代です。女性では 20 歳代の報告がもっとも多くなっています。



4　**先天性風しん症候群の発生について**：市内での報告はありませんが、全国では東京都の第 30 週 1 件を含め、今年に入り 9 件報告されています。風しんの大きな流行がみられなかった 2010 年は 0 件、2009 年は 2 件、2008 年は 0 件の報告で、今年の報告数は非常に多いことが分かります。

東京都	4 件(12 週、23 週、25 週、30 週各1件)	神奈川県(相模原市)	1 件(16 週)
愛知県	2 件（10 週、16 週各1件）	千葉県	1 件(27 週)
		大阪府	1 件(2 週)

任意予防接種の助成

横浜市では 19 歳以上の横浜市民で、「妊娠を予定・希望している女性（注：妊娠中は接種できません、接種後 2 か月は避妊をしましょう）」、「妊娠している女性の夫（婚姻関係は問いません）」を対象に麻しん風しん混合（ＭＲ）ワクチン１回分の助成を行っています。詳しくは横浜市ホームページをご参照ください。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課　TEL 045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課　TEL 045(754)9815